

# Editor's Choice



今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月は多人数で音声のチャットが楽しめる「Internet Party Line」と、アセンド社とメルコ社のダイヤルアップルーター、そしてザコム社のLANと28800bpsモデムの共用カードだ。ISDN用ダイヤルアップルーターの2機種はいずれも手ごろな価格で、端末型ダイヤルアップ接続からLAN型へのステップを考えている人には初めてのルーターとしておすすめだ。また、ザコムのカードは、LANとモデムの共用カードではめずらしく28800bpsをサポートしており、ノートパソコンのスロットが埋まっていると悩んでいた人が待ち焦がれていた製品として注目される。

## 今月のラインナップ

複数の人が同時に参加できる音声チャットシステム

### Internet Party Line

[開発元：インテル社]



10万円を切ったISDN用ダイヤルアップルーター

### ISDNリモートブローターLBR-64

[発売元：メルコ]



アナログポートが2つ付いたダイヤルアップルーター

### アセンド Pipeline25 ISDN

[発売元：アセンド・ジャパン]



LANカードと28800bpsのファックスモデムの共用PCカード

### Xircom CREDIT CARD ETHERNET+MODEM 28.8

[発売元：トランステック]



## このコーナーの見方

各製品に付いている記号の意味は以下のとおりです。

: ウィンドウズ95用	: 市販のハードウェア製品	: 動作環境	: バージョン
: ウィンドウズ3.1用	: 市販のソフトウェア製品	: 発売元	: 作者/開発元
: ウィンドウズNT用	: シェアウェアのソフトウェア	: 電話番号	: 入手先
: マッキントッシュ用	: フリーウェアのソフトウェア	: 価格	: 付属品
: UNIX用	: 付録CD-ROMに収録	: 関連情報	: ファイルサイズ/最速転送時間

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。

複数の人が同時に参加できる音声チャットシステム



Free



インターネットパーティーライン

# Internet Party Line (IPL)

👤 : インテル社

ここがスゴイ!

- ① 最高30人まで同時参加可能な音声チャットシステム
- ② WWWとのリンクもできる
- ③ サーバーソフトの運用が簡単

IRC (Internet Relay Chat) を代表とする「チャット」の音声版と言えるソフト「インターネット・パーティーライン (Internet Party Line、略称IPL) がインテルから登場した。これは専用サーバーを介して複数の人間が参加し、同時に全員が音声によって会話を楽しめるというソフトである。チャットといえば従来は複数の人が参加して文字のみで会話することを指し、音声による会話と言えばインターネットフォンなど1対1の電話形式のものを指していたが、このソフトはその両方を取り込んだまったく新しい形のシステムだ。

### ▶ 複数人で楽しめるインターネット電話

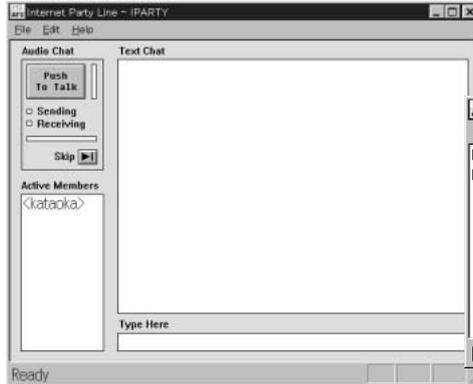
実際に使用してみると、まさにIRCの音声版という感じだ。参加者の音声はリアルタイムに全員に転送されるわけではなく、各参加者が自分のマシン側 (クライアント) でいったん送りたい音声メッセージをすべて吹き込んでから (1つの音声メッセージは20秒以内) サーバーに送り出し、各参加者へ配送される仕組みになっている。IRCで言えば、伝えたい1つの文章をすべて打ち込んでからリターンキーでサーバー側に転送するのと同じことだ。したがって、各参加者のメッセージの交換にはタイムラグ (時差) が発生するというものも同じだ。

### ▶ サーバーソフトの設定は特に必要ない

インターネット・パーティーラインはサーバーとクライアントの組み合わせによって動作する。インテルが配布しているパッケージには両方のソフトが含まれ、いずれもWindows95とNT上での動作が保証されている。ハードウェアは、サウンドカードとマイクはもちろんのこと、CPUにはペンティアムが必要と記述されているが、多人数の処理を行わないのであれば486でも十分だ。ただ、サーバー側の回線容量については1人の参加者あたり約13Kbpsの容量を消費するので、少人数ならばダイヤルアップ接続でも運用できるが、多人数で多くのデータ転送が見込まれる運用形態ならば専用線接続での環境が必要になるだろう。サーバーソフトは通常の運用ならば特に設定は必要ない。

### ▶ 日本語による文字のチャットもOK

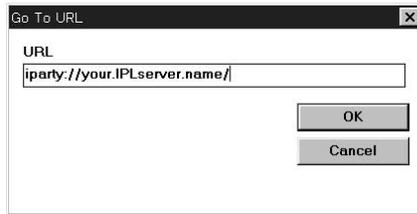
サーバーとクライアントのソフトは1台のマシンで同時に動かせるので、最低2台あれば2人で会話できる。クライアント側は音声データのバッファがあふれない限り、受け取り次第に再生していく。バッファがあふれ



① クライアントソフトの実行画面



② サーバーソフトの実行画面



▶ チャットを始めるには、サーバーのIPアドレスを指定する。サーバー側がダイヤルアップ接続でIPアドレスが不定である場合は、Windows95ではMS-DOSプロンプトから「winipcfg」とコマンドを打つことで現在割り当てられているIPアドレスを調べられる。

そんな場合、「Skip」ボタンを押せば再生中の音声メッセージを破棄させることもできるし、自分が音声データを吹き込んでいる最中は音声再生は一時停止するが、それが終わればすぐにまた続きを再生してくれる。また、IRCのような文字によるチャットの機能も含まれており、日本語の入力と表示も問題なく行えた。

### ▶ WWWとの連携が可能で活用範囲は広い

また、ブラウザ側で適切に設定することでWWWとも連携できる。ホームページに用意したリンクから自動的に指定のサーバーに接続させることもできるので、広く一般にサーバーを公開して自由に不特定多数の人に利用してもらうという使いかたもある。国内で実際にいくつかのサーバーが公開されているので、利用してみるといいだろう。たとえば、インターネット・パーティーラインの詳しい日本語による解説ページとして、東北大学の樋口さんによるホームページが公開されているのでよい参考になる。ここには一般公開されたIPLサーバーのリンクもある (<http://ftp.tohoku.ac.jp/~thig/chat/>)

インテルによると、プロトタイプのソフトということで、とくにクライアントソフト側に使いにくい点や不便な点が少なくないが、社内システムで使用するもよし、見知らぬ人や遠地の人と音声チャットを楽しむもよし、いろいろとアイデア次第で活用範囲の広いソフトといえるのではないだろうか。 (石橋文健)

Free

Internet Party Line



1.2



インテル社



URL <http://www.intel.com/iaweb/ajplets/iplpage.htm>



282Kバイト/1分41秒



URL <http://www.intel.com/iaweb/ajplets/iplpage.htm>



10万円を切ったISDN用ダイヤルアップルーター

ISDNリモートブレンダー

# LBR-64

¥ : 98,000円    Ⓜ : メルコ



ここがスゴイ!

- ① 10万円を切った低価格ISDN用ダイヤルアップルーター
- ② シェアードTA機能により端末型接続ができる

個人でインターネット接続というと、モデムやISDN用ターミナルアダプター（TA）を使った端末型接続が一般的だが、数台のマシンをLANで接続している環境であれば、ISDN用ダイヤルアップルーターを使って、ダイヤルアップでLANをまるごとインターネットにつなぐことができる。

LBR-64は低価格で小型のISDN用ダイヤルアップルーターで、64Kbpsの通信のほか、2Bの同時使用による128Kbps通信や、Bチャネルを2組同時に使って2か所との同時通信もできる。接続プロトコルはPPPなので、各社のISDNルーターやTAに接続できる。

▶ ついに10万円を切ったISDN用ダイヤルアップルーター  
小規模LANをインターネットにつなぎたい場合、端末型ダイヤルアップIP接続は相性がよくない。インターネットに接続された端末とLANが有機的に使えないのだ。「かと言って専用線は高嶺の花」という場合には、ネットワーク型ダイヤルアップIP接続が便利だ。プロバイダーに端末をつなぐのではなく、LANそのものをダイヤルアップで接続するのである。インターネットが各組織のLANを相互に接続したものであることを考えると、より「インターネットらしい」接続だと言えるだろう。

このような接続を行うには、ルーターあるいはブレンダーというLANどうしを接続する機器が必要になる。LBR-64は、ISDN回線（あるいは専用線）を使って、遠隔地のLANを64Kbps（あるいは128Kbps）で接続するルーターだ。以前はこのような機器は100万円以

上していたが、昨年あたりから個人でも買えるくらいの価格になり、この製品ではついに10万円を切ってしまった。

▶ 回線の接続と切断は自動的に行われる

ネットワーク型ダイヤルアップの基本的な仕組みは簡単だ。LAN上のマシンから外部のWWWサーバーをアクセスしたり、メールを送るなど、リモートネットワーク宛のパケットが発生すると、LANに接続されたルーターが相手（プロバイダー）に接続し、中継する。パケットがなくなって一定時間が経過すると、回線を切断する。つまり、回線の接続と切断はルーター内部で自動的に行われ、ユーザーから見ると（接続時にちょっと遅れがあるが）常時接続のように見える。また、LANに接続された複数の機器が同時にインターネットにアクセスすることができる。

▶ 設定にはクロスケーブルが必要

LBR-64は、ISDN回線のインターフェイスとLAN用のインターフェイス（LBR-64は10Base-T）を備えている。この2組のコネクターは形状が同じなので注意しよう。このほかに「コンソールポート」というシリアルポートがある。ネットワーク設定完了後は、TELNETなどのユーティリティを使って設定を変更できるが、初期設定はシリアルポートを介してパソコンなどを接続し、ウィンドウズ95に標準で付いている「ハイパーターミナル」のようなVT-100互換の端末ソフトを使うことになる。このために、9ピンのクロスケーブルが必要である。コンソールポートやTELNETでログインすると、設定メニューが現れる。ここで、ローカルLANとリモートLANのIPアドレスや経路情報、そしてPAPやCHAP、電話番号、アカウント名、パスワードなどの情報を設定する。

## 試用レポート

▶ IJとのPAP接続ができない

実際にIJのネットワーク型ダイヤルアップサービスに接続してみた。CHAPでは接続できたが、PAPでは接続できなかった（IJは両方サポートしている）。接続した後は問題なく動作した。LBR-64は、相手側ゲートウェイのIPアドレスを指定しなければならないので、事前に調べておかなければならない（この情報は、IJが用意している接続マニュアルには記載されていない

筐体は小さく、同社のハブと重ねられるようになっている。



いので、問い合わせる必要がある。ただし、マニュアルには記載されていないが、相手側アドレスを「1.1.1.1」と設定することにより、実質的にアドレス指定なしで機能するようだ。

その後、筆者が自宅で使っているヤマハのISDNルーター「RT100i」と接続してみた。この場合は、問題なくPAPで接続できた。どうやら、機器の微妙な設定が影響しているようだ。

#### ▶ ひとつの機能は装備

もともとルーターという機械は地味なものであり、きちんとパケットの中継さえしてくれれば、ふだんはその存在すら忘れていたようなものだ。LBR-64は、ISDNルーターに求められる機能はひとつも持っている。

付加機能として通信時のデータ圧縮がある。転送するデータの種類にもよるが、これにより実効転送レートは64Kbps（あるいは128Kbps）以上になる。ただし圧縮モードは、LBR-64どうしの通信でしか保証されていない。また、独特な機能として、シェアードTAモードがある。ルーターでありながら、端末型アカウントで接続できるのだ。要するに、モデムやTAにシリアルケーブルでつなぐ代わりに、イーサネットを使うと思えばいい。

#### ▶ 惜しい点があるが、価格の安さは魅力

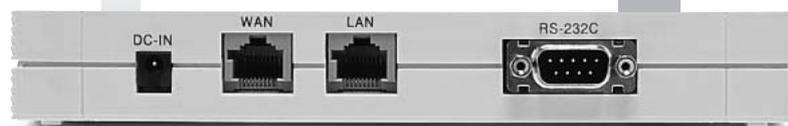
残念な点は、設定パラメータをtftp（ユーザー認証が不要なファイル転送方式）で送受できないことだ。設定が失われたりしたときに、いちいちメニューから再設定しなければならない。tftpによるファームウェアのアップデートができるのに、この機能がないのが不思議だ。

また、ぜひ改善して欲しいのがマニュアルである。今回評価した製品では、ファームウェアとマニュアルのバージョンが違っていて、メニューにあるのに解説がない項目があったりした。また、各メニュー項目の詳しい解説や、項目間の関連性に関する記述が少なく、設定例以外の構成で使う場合は非常に苦勞する。TCP/IPネットワークやPPP設定の経験がないユーザーには難しいだろう。

ただ、それでもやはりこの価格は魅力的だ。LAN型ダイヤルアップに挑戦してみたい人は選択肢の1つとして考えてもよいだろう。（榊正憲）



① 正面にはインジケータがならぶ



② 背面からみたとこ。右からACアダプター、ISDN用モジュラーコネクタ、10BASE-Tコネクタ、シリアルポート



#### LBR-64



:メルコ  
インフォメーションセンター



:052-619-1827



:98,000円



:ACアダプタ、NTSInternet/LAN  
(ネットワークソフトウェア)



アナログポートが2つ付いたダイヤルアップルーター

パイプライン25 ISDN

# パイプライン25 ISDN

¥ : 140,000円 ㊦ : アセンド・ジャパン



ここがスゴイ!

- ① アナログポートが2つ付いている
- ② 動的な帯域切り換えができる

アセンド社はISDNルーターについては定評のある会社で、同社の製品はプロバイダーでも数多く採用されている。パイプライン25はアセンド社の製品で、小規模LAN向けのISDN用ダイヤルアップルーターである。

### ▶ アナログポートが2つ

シリアルポートに接続するTAでは、アナログポート（電話やモデムをISDN回線に接続するためのインターフェイス）を持つものは珍しくない。個人では回線を1本しか引いていないことが多いので、1台の機器で電話と通信に使えるこのような製品がよく売れているようだ。しかし、ISDN用ダイヤルアップルーターには、このような製品はなかった。パイプライン25は、ISDNルーターには珍しく2ポートのアナログインターフェイスを備えており、これ1台で64Kbpsと128KbpsのISDN通信と、電話やFAXなど2台のアナログ機器の接続ができる。アナログ回線をISDN回線に切り替えようと思っている人には見逃せない機能だろう。

### ▶ Bチャンネルの動的な割り当てができる

2Bモードの128Kbps通信は、速度が倍になるが、料金も倍になってしまう。「大量のデータを転送するときだけ2Bになれば」といったときに便利なのがこの機能だ。トラフィックに応じて1Bと2Bを自動で切り替える。また、2Bで通信中に電話がかかってきたときに、通信を1Bにして電話用に回線を空けるといったこともできる。データ圧縮機能もサポートしており、メーカーでは、2Bモードで実効で最大512Kbpsとしている（これらの機能を使うためには相手側の対応も必要だ）。もちろん、2か所の異なる相手との同時通信も可能である。

薄くてコンパクトな筐体



### ▶ 購入時には選択が必要

パイプライン25にはいくつかの製品オプションがあり、用途に応じて購入時に適切に選ぶ必要がある。まず、データ圧縮機能はオプションで、データ圧縮用の内蔵ハードウェアモジュールが必要である。また、ルーター機能はソフトウェアオプションで、IPルーターかIPXルーター（NetWare用）が選べる。どちらも選ばない場合は、ブリッジ機能のみとなる。

### ▶ 項目はほぼ標準的

9ピンのシリアルポートにVT-100互換端末をつないで設定するが、ケーブルはストレート接続のものを使う。設定は基本的にメニューにより行うが、コマンドモードもあり、ルーティングやインターフェイス情報など、一部の機能はコマンド行からも設定や参照ができる。メニュー画面の約半分は、ステータス表示画面で機器や回線の現在の状態が表示され、エラーなどを調べやすい。設定やテストの際にはありがたい構成である。

設定はシリアルポートがISDN回線経由で行い、ネットワークから設定メニューにはアクセスできないようだ。また、設定データのダウンロードとアップロード、ファームウェアのアップデートもシリアルポートを介して行う。

設定項目はほぼ標準的なもので、LAN（10Base-Tと10Base-5をサポート）、PPP、フィルターなどの設定がメニューからできる。LAN機器専門メーカーらしい点として、セキュリティの多様さがある。PAP、CHAPのほか、セキュリティカードなどもサポートされる。また、機器設定へのアクセスにも、さまざまなセキュリティレベルが用意されている。

この製品はもともと北米仕様のもので（日本の認定も通っている）なので、一部のパラメーターは米国の値がデフォルトになっている。たとえばBチャンネルの容量が64Kbpsでなく56Kbpsだったりする。この辺をきちんと設定しておかないと、最高のパフォーマンスを得られないことがあるので注意すること。

この製品もメルコと同様に必ず相手側アドレスを指定しなければならない。

## 「試用レポート」

### ▶ IJには問題なく接続

IJには問題なく接続できた。設定作業自体は比較的容易だが、IPルーティングの接続設定とルーティング設定が別のメニューにある。後者については接続例では解説されておらず、リファレンスマニュアルまできちんと読んでおく必要がある。

マニュアルに従えば、相手側のアドレスを調べて設定する必要があるが、アドレスとデフォルトゲートウェイに1.1.1.1を指定することにより、正確なアドレスを指定しなくても接続できる。

ヤマハの「RT100i」との接続実験は、1回線に2台接続して行ったため、完全にはできなかったが、問題はなさそうだった。

接続相手、借用した機器、回線の都合により、データ圧縮や動的なチャンネル割り当ての実験はできなかったが、1Bでの通信と電話の両立だけは確認した。プロバイダーに接続するだけであれば、おそらくこのような使い方になるだろう。

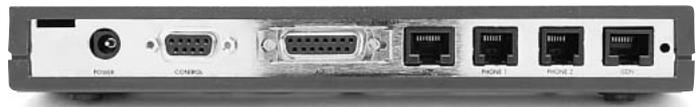
### ▶ マニュアルを読むにはある程度の知識が必要

マニュアルはリファレンスとユーザズマニュアルの2冊で、必要な情報はほぼ得られるようになっている。しかし、LANの素人がマニュアルだけを見て設定できるほど懇切丁寧なものではない。全般的には、翻訳マニュアルの常で、あまり読みやすいとは言えない。

ルーター機能には不満はないが、メンテナンスがシリアルポートのみというのが残念である。(榊正憲)



① 正面には5つのLEDインジケーターがある



② 背面。左からACアダプター差込口、シリアルポート、10Base-5ポート、10Base-Tポート、アナログポート1、アナログポート2、ISDN用モジュラージャック



## パイプライン 25 ISDN

 : アセンド・ジャパン

 : 03-5325-7397

 : 140,000円

 : ACアダプタ、9ピン-25ピン変換アダプタ、UTPクロスケーブル



LANカードと28800bpsのファックスモデムの共用PCカード

ザーコム・クレジットカードイーサネット・プラス・モデム28.8

# Xircom CREDIT CARD ETHERNET+MODEM 28.8

¥ : 79,000円 トランステック

ここがスゴイ!

- ① LANカードと28800bpsのファックスモデムが1枚のPCカードで実現
- ② 堅牢でしっかりとした作り

ザーコム・クレジットカードイーサネット・プラス・モデム28.8 (Xircom CREDIT CARD ETHERNET+MODEM 28.8) はLANカードとモデムが一体になった、マルチファンクション (多機能) カードだ。これが1枚あれば、会社のLANにつなげることも、プロバイダーにダイヤルアップ接続してインターネットを使うこともできる。「一枚二役」のPCカードだ。

### ▶ マルチファンクションカードは便利

マルチファンクションカードを使う最大のメリットは、PCカードのスロットを節約できることだ。カードをすでに持っているスロットが1つぶさがっている人は、機能ごとにカードの抜き差しをする必要がなくなる。

### ▶ 28800bpsでの接続が可能な共用カード

LANとファックスモデムの共用カードは、日本ではインテグラン社製やエイベックス・データ社製のものが発売されていたが、両社ともモデム機能は14400bpsまでだった。ザーコム社製で19200bpsのものがあったが、インターネットでWWWなどを楽しむには、やはり28800bpsがほしい。というわけでLANカードと28800bpsモデムの共用カードの登場が待たれていたわけだが、ようやく登場した。

価格は79,000円だ。実売価格は、おそらく標準的な28800bpsのモデムカードとLANカードを別々に購入した場合よりも高いだろう。スロットが1枚で済むメリットを生かしたい人にとってはこの価格でも魅力かもしれないが、やはりもう少し低めの価格設定にしてほしい。今後の値下げに期待したい。

### ▶ しっかりとした作りのコネクタ

このカードはメガヘルツ社製のファックスモデムカードやLANカードのように、コネクタをカードにじかに付けられるようにはなっていない。モジュラージャックを差すためのボックス状のユニットをコネクタで取り付けるタイプだ。コネクタの付け根はロックするところが2か所あり、キーボードで入力中、手がすべってぶついても、簡単に外れるようなことはない。モジュラージャックを差すユニットも堅牢な作りになっている。また、イーサネットを差すジャックにはインジケータが付いており、データの流れが視認できる。

- ③ 2つの外付けユニットが付く。大きい方のユニットに電話回線、小さい方にLANケーブルを差す。

- ④ コネクタの付け根。2か所でロックできるようにしており、しっかりと装着できる。

## [ 試用レポート ]

### ▶ ウィンドウズ95に簡単にインストール可能

今回お借りした製品はデモ機で、実際に販売されているものとは仕様が少し違う。外線発信が使えないようになっていたが、発売元のトランステック社に問い合わせたところ、実際に発売されているものは可能になっているとのことだ。

ノートパソコンはゲートウェイ2000のリバティで、OSはウィンドウズ95で試してみた。カードを差したところ、自動的に認識し、ドライバーのインストール画面になった。ウィンドウズ95のドライバーが添付されているので、ハードウェアウィザードに従ってインストールを行ったところ、各種機能が使えるようになった。

### ▶ 何の問題もなく接続に成功

まずはインプレスの社内LANに接続してみた。IPX、NETBEUI、TCP/IPの3種類のプロトコルですべて正常に接続し、通常使っているのと同じ環境が使えるようになった。今度はインプレスに公衆電話回線を利用してダイヤルアップしてみたところ、やはり何の問題もなく、28800bpsでのリモートアクセスが成功した。

また、社内LANにつなぎながらBBSにアクセスしてみたところ、これも成功した。LANとモデムを同時に使用してもまったく問題がなかった。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



Xircom CREDIT CARD ETHERNET+MODEM 28.8

: ウィンドウズ3.1、95、NTを搭載し、PCMCIAタイプ2かタイプ3のスロットを装備したIBM-PC互換機

: トランステック 情報通信営業部

: 03-3230-9333

: 79,000円

: 電話回線モジュラージャック、電話回線接続用ユニット、イーサネット接続用ユニット、ドライバーディスク、ファックスソフト (デルリナ社製)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)